課題番号39

# 秋まき小麦の安定生産技術の定着

## ～生育に応じた適正施肥技術習得～

対象：豊里農業経営活性化協議会（畑作部会）（19戸）

## １　活動の背景

岩見沢市の秋まき小麦は、「きたほなみ」、「ゆめちから」、「キタノカオリ」と多岐に作付けされている。「きたほなみ」では、適正施肥による茎数コントロールと適正穂数の確保、適期防除の徹底による収量の確保と品質向上が求められている。

また、豊里農業経営活性化協議会（畑作部会）の青年部員をはじめとする若手農業者は、栽培技術や経営管理技術の向上に対して関心が高く意欲的である。

このことから、「きたほなみ」の生育状況に応じた栽培管理を若手農業者を核として習得してもらうと共に、若手農業者の資質向上による地域における持続的農業の確立を目指す。

写真１　きたほなみ

## ２　活動の経過

本取組に対する関心が高い豊里農業経営活性化協議会の若手農業者５戸の「きたほなみ」ほ場に定点を設け、活動の基点とした（図１）。

活動開始が遅れたため、起生期追肥が実施されてからの活動となってしまったが、定点ほ場では、生育期節（起生期、幼形期、止葉期、開花期、成熟期等）ごとに調査を実施した。

調査は若手農業者に参加してもらい、自身のほ場の生育状況の確認と共に調査方法も習得してもらった。

定期的な調査だけでなく、基幹防除の防除適期を判断する生育期節の情報発信も行い、生育に応じた施肥や病害虫の発生状況に応じた技術を提案した。

図１　定点ほ場

表１　活動経過

| 年　月　日 | 内　　容 | 出席者 |
|---|---|---|
| R7年4月21日 | 起生期調査 | 1名 |
| 4月28日 | 幼穂形成期調査 | 4名 |
| 5月13日 | 止葉次葉展開確認による情報発信 | ― |
| 5月26日 | 止葉期調査 | 8名 |
| 6月3日 | 出穂確認による情報発信 | ― |
| 6月11日 | 開花期調査 | 13名 |
| 7月8日 | 成熟期調査による情報発信 | ― |
| R8年1月15日 | 結果報告会および講習会 | 11名 |

## ３　成果の具体的内容

提案技術実践農家　現況０戸→目標２戸→実績５戸

(1) 技術の習得が進み、生育に応じた施肥が実施

自身のほ場の生育状況を定期的に確認することで、より管理技術に対する興味が増し、定点ほ場を設けた５戸で提案技術が実践された。

(2) 情報交換の場が増加

定点調査を若手農業者と一緒に行うことで、調査方法が習得(写真2)され、生育状況に応じた施肥が実施されるようになっただけでなく、自宅以外の生育や管理状況を確認したことで、互いの実施技術のポイントなどの情報交換の場となった。

調査には若手農業者だけではなく、親世代の参加もあり、親世代からの技術伝達の場にもなった。

また、対象全体および若手農業者とＪＡ担当者が参加しているＳＮＳのグループが作成され、このことで、全体がいつでも確認できる双方向での迅速な情報交換の場が増えた。

(3) 学習意欲が向上

現地巡回や講習会(写真３)等で普及センターとの接点が増えたことにより、秋まき小麦だけでなく、大豆でも同様の要望が上がるなど、学習に対する意欲が高まった。

写真２　調査方法を習得

写真３　講習会

## ４　今後の課題と対応

(1) 調査方法の習得が進んだことにより、秋まき小麦の生育状況に応じた施肥が定着した。このことから、対象作物を希望の上がった大豆へ変更し、若手農業者の資質向上に向けた活動を行う。